

令和3年度 第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和3年7月28日(水) 13:00～
開催場所	神奈川自治会館
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員 (指定管理者) 横浜市緑の協会
開催形態	非公開
議 題	1 令和3年度事業評価(令和2年度分)職員採点について 2 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答 3 令和3年度第1回横浜市指定管理者選定評価委員会会議録

1 令和3年度事業評価(令和2年度分)職員採点について

- ・3園の得点を比較すると大きな乖離はないので、問題のない運営ができていると考えられる。
- ・このような困難な状況下で努力されていることについて敬意を表したい。
- ・調査員と評定員の点数を見ると、捉え方が異なるのではないかと思われる部分があるがどうか。
→評定員は動物園課の職員のため、通年で事業を見ており細かい点も把握している。一方調査員は、公園の指定管理を担当している部署の職員が努めている。バランスがとれた評価ができていると考えている。
- ・野毛山動物園の動物飼育について「ALL 横浜で希少リクガメに取り組む姿勢を評価した」とあるが、具体的にどのような点か。
→よこはま動物園ジャングルキャンプエリアの展示スペースが老朽化していたが、職員自ら整備した。その場所に、野毛山動物園からハウシャガメ等アフリカ産リクガメを移管展示し、横浜の動物園が希少リクガメの保全に取り組んでいることをPRするために活用したことを評価した。
- ・野生傷病鳥獣に関して3園とも同じような評価だが動物園ごとの特徴などはどのようなものか。
→金沢動物園ではタヌキが非常に多く野毛山動物園は鳥の雛など鳥の持込みが多い。
- ・動物の保護方法について、園による違いなどはあるか。
→市民サービスとして実施しており、お持ちいただいた方に寄り添った対応を行っている。
- ・野毛山動物園で実施している、学校を対象としたふれあい学習の事前学習プログラム開発について成果をあげることを期待したい。また、一般のお客様も引き続き大切にしてほしい。
- ・よこはま動物園の企業向け研修プログラム(進化の学校)について、持続可能であれば有料化にこだわらず無償でも積極的に展開するとよい。
→今回は試行的に実施したが、今後継続できれば良いと考えている。有料化コンテンツとして実施するかは決まっていない。

・「パーム油を使用しない環境配慮型商品の発売」は、大変結構なことである。ただし、このような取組をどのような枠組みで評価するかは、今後検討する必要がある。

・「動物福祉向上への評価」とは何を示すのか。

→日本動物園水族館協会（JAZA）が動物福祉評価の仕組みを構築中であるが、横浜市独自でもそれを追随する形での準備を進めており、指定管理者が自らチェックする仕組みの構築をすすめていることを評価した。

・全園的な対応で JAZA の仕組みに対応するものと理解した。国内をけん引する立場にあって大変だが頑張っ
てほしい。

・寄附について、今年（令和2年）増えたということは来年（令和3年）減ることがあるため今後どのように取り組んでいくか考えてほしい。

・野毛山動物園の70周年寄附付き商品の開発は大変結構なことである。

・アニマルペアレントの寄附をヤマアラシ展示場改修に充てたとあるが、個人の方からの寄附か。

→個人の方である。

・寄附者の名前公表はどのような扱いになっているか。

→アニマルペアレントは制度として掲示板に名前が付くが、遺贈等については決まりがないため先方の意向を伺っている。

・寄附の使い道を示すなど、寄附により支えられている感謝の気持ちを来園者やホームページ訪問者に伝えるようにするとよい。

・寄附について地元の企業向けPRに力を入れるとよい。企業の取組が職場内で共有されることをきっかけに足を運ぶことにつながり、効果がとても大きいと考えられる。

・企業が、動物園への寄附を地域貢献のひとつとして考えてくれたらありがたい。

2 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答

(指定管理者によるプレゼンテーション 質疑応答)

・指定管理者として全体の自己評価はどのように考えているか。

→先が見えないコロナ禍でかなり頑張ったと評価している。来園者数については、特に金沢動物園が健闘しており、（昨年4月～6月11日まで閉園していたため）昨年6月11日～今年6月10日までの1年間を見ると、今まで何度チャレンジしても越えられなかった目標の33万人を上回ったことが非常に大きい。

また動物園でコロナのクラスターが発生せず、指定管理者の職員に感染者が出なかったということは、日ごろの衛生管理を含めた成果と捉えている。

- ・企業との関わりについて、リモート研修プログラムの拡充や寄附について今後何か考えているか。
→令和2年度は企業向けの研修を試験的に実施したが、動物園の活用方法として成果があったと実感があるため、今後もニーズにあわせて実施したい。また現在は企業協賛として年間を通してお金をいただき動物園を使った企業のCSR活動を行う仕組みがあるので、より発展させていきたい。
- ・人材育成の取組の中で、専門性向上の視点は大変良いと思うがホスピタリティについてどう考えているか。
→全職員がホスピタリティ研修を受講することになっており、今後も力を入れて実施したい。
- ・動物園研究会報の冊子化や ZOO Biology への掲載は両方とも素晴らしい成果である。今後コロナで停滞しかねないか気になるが、何か方策を考えているか。
→毎年実施している3園合同研究会について、昨年はYouTubeに動画をあげるなど工夫をした。今後も手段を検討し、より多くの人に研究の成果を還元していきたいと考えている。
- ・今年も動物園研究会報は前年と同程度発表できると考えているか。
→はい。
- ・野毛山動物園のリモートプログラムについて、大変結構なことであり成果が出ることを期待したい。加えて、動物園ならではの体験が活かせるリモートの使い方につながることを願っている。
- ・企業向け研修プログラム（進化の学校）の参加者の声に「生態系や生物の関係性を理解した経営こそが重要であると感じた」や「自然と共生させてもらっていると感じた」とのコメントがあるが、このようなコメントが出ることは素晴らしく、これこそ環境教育であると思う。国内的に見ても先進的で素晴らしい事例なので、これから拡大していくことを期待したい。
→要望があれば応えていきたい。このテーマは横浜市の施策でもあるSDGsに関連しており動物園はすごく適していると感じている。
- ・要望を待つのではなく需要を掘り起こすことが動物園にとって非常に重要な公益性だと考えるので、積極的に攻めていく部分である。
- ・オンライン化を実施したことは素晴らしいが、それに対する改善の成果はどうか。
→成果について科学的に検証したいと考えており、野毛山動物園では近畿大学と共同研究をしている。教育の指導要領も大きく変わったため、それに合っているかも含めて検証していく。
- ・ブログやツイッターの発信が増えたが、増えただけでは意味はない。何を目標に発信しているか。
→各園の職員数に応じて発信件数の目標設定を行っている。しかし、その目標を達成したらよいということではなく、それ以上に様々な反応を受けて良い評価に繋がると思っている。
- ・発信数より発信頻度やフォロワー数、いいねの数など重要性の高い指標があると思うが、量をコントロール

ルするだけでなく動物園ファンとの信頼関係作りなど、質を高めて活用してほしい。

・動物福祉について JAZA の動向を確認する必要があるが、横浜市の動物園は国内の模範となるように他園へのノウハウの提供も含めてすすめてほしいと思う。今の進捗状況や他園からの問合せ状況など伺いたい。

→JAZA は細かい部分までまだオーソライズされていないが、横浜は WAZA に加盟しており全く関係のないものを作るわけにいかないのが、市と相談しながら動いている状況である。他園から問合せがある状況ではない。

・アニマルペアレントなど寄附件数が伸びている要因は何か。

→アニマルペアレントは3園のホームページの比較的目的につきやすいところに置いたのが良かったと考えている。また、今回はよこはま動物園に大阪の天王寺動物園からホッキョクグマが来園し固定ファンの応援もあると考えている。今後は、郵便振込だけではなくクレジットカードにも対応できるようにしてホームページ上から寄附をいただけるように改善を図りたいと考えている。

→ライオン募金を野毛山動物園独自に設定しているが、募金箱の位置を入園口から退園口に変更した。動物園を見て良かったという感謝の気持ちを寄せいただけたこと、また成果が職員にも見えることなど大きく改善できたと考えている。あわせてホームページのトップに野毛山募金について掲載し PR しており大きな伸びにつながっていると考えている。

・寄附の使い道をお知らせするなど感謝の気持ちを表してほしい。一時的に寄附件数が増えて、また減少するということがないように信頼関係づくりを大切にしてほしい。

・年間パスポート購入者に対するアプローチを行っているか。

→特に実施していないため今後の課題としたい。

・ツキノワグマのエンリッチメントとはどのようなものか。

→竹に穴をあけて吊るしており、動物がこれを振ると穴からペレットが出る仕組みである。このほかに職員が竹のはしごを作り登ることができるような工夫もしている。なかなか苦戦しているが良いエンリッチメントになっていると感じている。

・キリンにも工夫しているときいたが。

→片面がアクリル板になっている穴の開いた給餌器を作った。キリンが穴に舌を入れて餌をとろうとすると、お客様はアクリル板の方からキリンが舌をどのように使って餌を取るかを見ることができるようである。

・域内保全・域外保全について、説明のほかに進めている取組はあるか。

→非展示だが、環境省と協力して金沢動物園でアマミトゲネズミの保全に取り組んでいる。

・もうすぐ閉園になる油壺マリンパークでは、神奈川県と一緒にイシガメなどの飼育に取り組んでいる。横浜市も広く自然が残っているところがあり市の取組として必要だと思う。

→金沢では身近な生き物館で横浜のホタルや両生類などの展示を行っている。

(プレゼンテーション、質疑応答終了 指定管理者退出)

(委員意見交換)

・ ツシマヤマネコは全体で繁殖が止まっているので、よこはま動物園の人工繁殖は大変評価できると考えている。

・ コロナ禍だったが寄附の収受に努めた件は、事業効果を高める取組として考えて良いと思う。

・ 世界的な種の保存はしっかりやっているが地元のことが見えにくい。金沢動物園はクワガタの域外保全を一生懸命やっていたが今は続いているのか。

→続いている。

・ 世界中にたくさんの動物園があり、そこで地元の動物を1種類ずつでも飼育すると千の動物園があれば千種飼育できることになる。金沢動物園ではそのような役割を期待したい。

・ 外から見えにくい取組について情報発信をしていないのは残念である。横浜市の動物園なので横浜市の生き物をこのように飼育しているなどということが、はっきり見えるとよい。

・ 飼育や研究について、個人だけに頼るのではなく戦略的な検討も必要である。

・ 調査研究についても環境教育に対しても、まだ拡大できる余地がありそうだ。

・ 利用者サービスの向上の点では SNS の発信について、特筆すべき点として挙げられると思う。

・ パーム油を使用しない環境配慮型商品の発売については、事業効果を高める取組として評価できる。

・ コロナ禍で様々な努力をしたことを認めたい。

・ 入園者数についていえばコロナ禍で大変な状況にも関わらず、他園と比較しかつ補正をかけた数値でもみて相当の入園者数を確保できており、加えてクラスターを発生させなかったことを評価したい。

・ 健闘したといえる。

・ 飲食物販を直営から委託に変えたことの影響が数字上でも表れており評価できる。

(採点)

(採点結果について説明 合計 481.5 点 評価 A)

3 令和3年度第1回横浜市指定管理者選定評価委員会会議録

(資料4 令和3年度第1回横浜市指定管理者選定評価委員会会議録案の説明)

(一同了承)

配布資料	資料1	横浜市動物園等の事業評価について
	資料2	指定管理者事業評価依頼書
	資料3	指定管理者事業評価採点報告書(令和2年度分) 調査員・評定員所見シート
	資料4	令和3年度第1回指定管理者選定評価委員会会議録案
	参考1	横浜市動物園等の指定管理者の選定及び評価に関する要綱
	参考2	横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会運営要綱
	参考3	指定管理者出席者名簿